

重症下肢虚血患者に対するアンギオサムに基づいた血行再建術の 有効性に関する多施設・前向き観察研究

この研究における「重症下肢虚血」というのは、動脈硬化のため、足(下肢)を流れる動脈が慢性的に細くなったり詰まったりすることにより、足が虚血(血が十分通わない状況)にさらされて、潰瘍や壊疽(えそ)ができ、これが治らない状況を言います。膝から下には動脈が3本走っており、足の血流はこの3本の動脈でまかなわれています。各動脈が足のどの部分の血流をまかなっているかは動脈ごとに異なっており、「アンギオサム」というのは、それぞれの動脈がどの部分の血流をまかなっているかを示す言葉(考え方)です。本研究では、重症下肢虚血に対してどの血管を治療するかをアンギオサムの考え方に基づいて分類し、その治療成績を比較することを目的としています。具体的には、全国の複数の医療機関において、重症下肢虚血に対して血流を改善させる手術(血行再建術)を受ける予定の患者さんを対象に、その後の治療経過を2年間にわたって調査します。

本研究は国が定めた「臨床研究に関する倫理指針」を遵守し、当院での臨床研究倫理委員会(臨床研究の実施または継続に、倫理的観点及び科学的観点から、及び審議する委員会)においてその科学性・倫理性について厳重に審査され、病院長の承認を受けて実施されます。